



明治大学校友会 国分寺地域支部

2023年10月29日発行

会報第26号

爽やかな秋空の下、「昭島市下の川（龍津寺湧水）、拝島大師」ウォーキング

10月25日（水）、午前9時、JR 青梅線拝島駅南口に、今年の酷暑を忘れさせるような心地良い秋の晴天下、「絶好のウォーキング日和」。6地域支部、18名（国分寺7名、小平6名、清瀬2名、日野・武蔵野・立川各1名）の皆様が集合。当日は、先ず、バスで「啓明学園前」へ。現在、啓明学園北泉寮になっている「旧三井家拝島別邸」（都指定有形文化財）を見学、但し、残念ながら現在は、非公開ということで裏門から全容を見るだけでしたが。そこから、すぐ近くにある多摩川から取水している「昭和用水堰」遊歩道に。小林信夫学芸員から、遊歩道から眺められる「林の上遺跡（縄文時代早期）」や対岸の滝山城跡（中世城郭跡）等歴史的遺跡について、資料に基づき詳細な説明がありました。「昭和用水堰」には、近くの「龍津寺」からの湧水も流れ込んでおり、この湧水は、東京都から「名水57選」に選ばれています。古代多摩川が削り取られてできた「立川崖



線」から浸みだしているこの湧水の流れに沿って、四季折々の自然が感じられる小径が整備されており、この遊歩道に沿って、暫しの安らぎのウォーキングを。

本日のゴールは、「拝島大師」（天台宗、開創1578年）。西関東随一のお大師さまで、多くの参拝者で賑あう正月の「だるま市」は有名。広い境内には、元三大師中堂、八角円堂、五重塔など多数の堂宇が点在する。境内は、ほとんど人が無く、静寂な雰囲気の中、ゆったり参拝が出来ました。今回のウォーキングは、一部、バス

利用もあり、ゆったりとした第14回「歴史探訪ウォーキング」でした。締めは、昭島駅近くの「バーミヤン」での「打ち上げ会」、喉を潤す「生ビール」の味は格別でした。来年もやりますよ！是非、「歴史を感じるウォーキング」に参加しませんか。

最後に、今回も大変お世話になりました、小林信夫学芸員（国分寺地域支部副支部長、前多摩支部総務委員長）に深く感謝申し上げます。





「小平地域支部」の皆様と「国立演芸場」ありがとう

～「国立演芸場」での最後の「演芸鑑賞会」にあたって

小平地域支部主催の「演芸鑑賞会」は、去る9月12日（火）の開催で、41回を迎える地域支部のなかで歴史ある行事の一つです。私ども「国分寺地域支部」は、平成29年（2017年）8月の第16回から、これまで25回、延べ173名の方がお世話になりました。



「国立演芸場」での公演では、三遊亭小遊三、柳家喬太郎、柳家市場、金原亭馬生、春風亭小朝等の錚々たる師匠の落語を堪能させて頂きました。また、公演終了後には、帰

り道にある「幸福園」という中華料理店での晩酌セット（税込み1,180円）が何よりの楽しみでした。

本年10月末をもって、行きなれた「国立演芸場」が建替えのため44年の歴史に幕を下ろし閉場、6年後の2029年までお別れということになります。「国立演芸場」が再スタートするまでの間は、寄席を変え、小平地域支部の「演芸鑑賞会」が不滅の行事として、引き続き活動していただくことを切に願う次第です。

9月12日の「国立演芸場」での最後の「演芸鑑賞会」は、小平地域支部の皆様と、国分寺地域支部から6名、多摩支部から土屋支部長、江面幹事長がご一緒させていただき、名残惜しい「国立演芸場」に、笑ってお別れをしました。

国分寺地域支部の皆様も日常を離れ、粋な風情に浸りませんか。

（問合せ先：幹事長 佐々木一郎）

寄稿

『祭りのあと』

50年もの長きに亘って住み慣れた国分寺を址にして『桑の都八王寺』に都落ちしてから早7年の月日が過ぎ去り、この十数年の間、重篤な病との闘いの明け暮れで、病院通いの日々が続いた為、『終の棲家』となった第三の故郷・八王子の事も十分に知り得ぬ

平 亮（昭42・商）

儘、無駄な時を過ごし『傘寿』を迎えるに至ってしまった。

我が八王子市は、多摩南部に位置する都内唯一の中核都市で、面積は奥多摩町に次いで東京都の市町村で二番目に広く、58万人の市民が住む都内最大の街である。



江戸時代から養蚕業・絹織物業が盛んであった為『桑の都』と言う美称が伝統となり、甲州街道沿いには機屋さんや呉服問屋が居並び、繁栄を極めていたが、太平洋戦争の戦禍の為荒廃した街並みは、高度成長経済を迎え都心から40Kmと言う利便性から、ベットタウンとして発展し、市内には大学・短大が23校存在し、海外留学生3,000名を含め約11万人の学生が学ぶ全国有数の大学都市となった。嘗て商店街であった甲州街道沿いには、高層マンションが立ち並び、昔の面影は全く消え去ってしまったが、八王子駅北口の中町には、多摩地域唯一の『花街』が今でもその名残を残していて繫盛している。

令和5年、時は盛夏8月、コロナ禍の影響で途絶されていた、『八王寺まつり』が3年越しに再開され、熱い魂が再び集まった。4日から6日に亘って開催された祭りは、待ちに待った65万人の迸る熱気とノスタルジヤ、更には日野市・町田市・昭島市を中心とする近隣の住民に、甲州街道と国道16号が並走する約2km、道幅20mの街路と道辻は全て占拠され、移住して来て以来初めて見る光景であった。歩道に居並ぶ50店舗以上の露店商は何処も1時間以上待ちの行列が出来、どこもかしこも身動きが出来ない様な状態となり、過酷な暑さの中整然と待つ人並みのパフォーマンスとバイタリティーは会場を熱く盛り上げ圧倒されるものがあった。圧巻の催し物は、老若男女4,000名が浴衣姿で『最大人数で踊る盆踊り』ギネス

ブック世界記録に認定された『民謡流し』や約20台に及ぶ和太鼓『関東太鼓合戦』の勇壮な響きである。演じる方も見る方も酷暑の中、想像を絶する忍耐を必要としたが、全国に鳴り響いた悪名高き7月13日の摂氏39.1度の暑さは、前日の降雨によって僅かながらも弱められていたのが救いであった。祭りのクライマックスは、江戸時代から続く多賀神社の『上の祭り』と八幡八雲神社の『下の祭り』を継承した関東屈指の山車祭りとされ、日中は、そろいの半纏を身にまとった氏子らが重さ4トンを誇る多賀神社の『千貫神輿』と八幡八雲神社の宮神輿を担ぎ、各町会の1,600人にも及ぶ町方が担ぐ大迫力の神輿が練り歩き、夕刻から『辻合わせ』が行われ、華麗な彫刻が施された19町会の山車が漆黒の中に浮かび上がり、お囃子を競い合う絵巻が繰り広げられた。年端も行かない子供から男女を問わない1台200名にも及ぶ引き手の綱は忘れられようとしている『絆』を彷彿とされ、勇壮であると共に荘厳な光景であった。齢80歳の小生は、子供の頃大好きであったお祭りにも参加する事が出来ず、マンション(ミッドプレイス)の二階のベランダからグラスを片手に平和と健康を唯祈るばかりであった、翌朝、我が家から見下ろした街並みは昨日迄の喧騒が何処にも見当たらず、『兵どもの夢の跡』宜しく、何時もの静寂な佇まいだけがそこにあった。やがて旧盆を迎え、朝夕に『目にはさやかに見えぬ風の音』に驚かされつつ年を加えて行く身ではあるが、出来得るならば80歳を迎える記念して著わした千ページにも及ぶ『自分史』の1ページでも書き直す事が出来ればと、細やかな願いを抱く今日この頃である。



傘寿・記念で自己紹介

福島啓充（昭41・法）



私は、明治中・高・大学と青春時代を明治で過ごしました。青春時代と云っても司法試験を目指したため、一日10時間教材を読むという命題を造って自習室や図書館にこもっていましたので、それほど楽しいことはありませんでしたが、この時期の宝は、同じ目標を持った生涯の友人ができたことで、現在も付き合っています。幸いマグレで試験に合格し、検事に任官し、7年間勤めました。様々な事件を担当しましたが、特に印象に残っているのは前橋地検高崎支部に赴任したとき、私の管内から次々と死体が発見。それがいわゆる連合赤軍事件で、それを最初から担当したことです。その後、昭和50年に退官して弁護士になりました。

明治大学では、平成8年から2期6年間評議員、平成16年から2期4年間監事を拝命しました。当時明大には過激派が住み着いており、古い方は彼らの立て看板がずらりと並び立てられていたことを覚えていると思います。あるとき、その一会派から学生部長(教授)が襲撃され重傷を負う事件が発生しました。それを契機に役員、教職員が一致団結して過激派と戦い、明渡しの裁判を提起しました。私も大学の代理人として法廷活動や交渉を担当しました。結論として、この事件は明渡しが成功し、立て看板も全て撤去され、現在のような平安な校内秩序が形成されたのです。ともあれ様々な事件に遭遇しながら現在に至っており、

現役で仕事をしております。

明治高校昭和37年3月卒業生は、「三七会」という同窓会をもっていますが、本年6月8日、明治大学紫紺館において、7年ぶりに「三七会2023」を開催しました。

我々がなんと傘寿！思えば遠くに来たもんだ・・という歌がありましたが、光陰矢の如し、紅顔可憐な美少年たちが、今や倣岸不遜なジジイに？

総勢40名の旧友が集まり、大変な盛り上がり、楽しく懇親を深めることができました。締めは、校歌および応援歌・紫紺の歌。皆で元気いっぱい大きな声で歌いました。久方ぶりの校歌・応援歌で30年ぐらい若返った感じです。

集えること自体が幸せなことです。仕切り直して健康に留意しながら頑張ろうと思った次第です

国分寺地域支部の皆さんにはお世話になりばなしで心苦しく思っていますが、支部長、幹事長、幹事の方々の献身的な尽力に心より感謝申し上げます。



胃癌闘病記

小柳文男(昭43・商)

2021年9月28日、後期高齢者医療検診で血液検査に異常発見、東京都がん検診センターにおいて10月15日から12月7日までの間、胃内視鏡検査・腹部CT検査・大腸検査など様々な精密検査の結果、胃癌重症度カテゴリー4段階中3の上で、しかも癌細胞が胃中央部、リンパ腺、膵臓についている状況でした。多摩総合医療センターに12月15日入院、

17日腹部上下に大きく切開ぶ手術を受けました。以後、また手術翌日から歩行等年の瀬も迫り前後して手術したが、9階の病棟から見え手術跡の激痛により3日3り親指大のプリン(食事)がストップ・・・その後、退院退院近しの希望が湧いたがに逆戻り、あ・・・、このよを保つ事が出来たのは、気



発生時、神社詣でお守りを病室に届けていただいたり、その他近隣の方々・若竹会・老人会・野菜のお客さん等多くの方々の励ましのおかげでした。その際新型コロナウイルス感染症予防上面会ができず、また手術後音声機能障害に陥り、声が出ず、唯一メールがコミュニティ手段でした。



その功あり、1月15日から重湯・三分がゆ・五分がゆとなり、1月24日、41日間に及ぶ入院生活にピリオド。退院後、毎週X線・CT等を受診、3月3日からは、3週間ごとに4時間に及ぶ抗がん剤点滴を延べ9回受け、**その後は3ヶ月毎に癌細胞転移有無の検査**を受けています。抗がん剤副作用として、倦怠感、思考力の低下、手足のしびれ等が今でも生じています。また、めまい、倦怠感、食べたものの逆流等ダンピング症候の予防上、食事は1日5~6回少量をゆっくり噛んで食べ、食後は上半身を起こして、就寝時は20度ぐらい高くして寝ます。胃癌手術を受けた人に多い、激痛を伴う腸閉塞に罹患し、4月16日から24日迄、再度の入院生活に逆戻り、また体重は入院前56kgから退院時は43kgと激減し、体力回復を図るため、徹底した食事管理を促し、今では48kg迄回復したが、食事量が少ないため体力がなく、疲れやすい状態です。ここまでこれたのは、**食事管理他すべての面で、妻「みるゑ」の献身のおかげです。非常に感謝！感謝！です。**

今後、趣味の季節野菜作り、また、地元若竹会・老人会などの活動を通じ社会に恩返しをしていきたいと思っています。(小柳さんは、5月3日の国分寺地域支部定時総会時にご入会頂きました。)

Home Coming Day が盛大に開催

納谷菊夫(昭45・政経)

第26回ホームカミングデーが、10月22日(日)、駿河台キャンパスで4年振りにリアル開催されました。多くの校友が、コロナ禍明けで久しぶりに会い歓談、イベントに参加し、感動の再開をしていました。

私は、12年間、ホームカミングデーの案内パンフレットの制作に携わり、益々発展する母校に少しでも貢献できた事を、心より感謝しております。



弊社の制作スタッフにも感謝です。

また、六大学野球秋季リーグ戦が開催されました。野球部の選手ガイドも12年間制作をして来ました。

私の人生におきまして、母校に関係したことを誇りに思います。

これからは、皆様と地域支部の発展に微力ながら尽くしたい所存です。



新年会、開催決定 皆様のご参加お待ちしております

来年の「新年会」は、4年振りに開催いたします。

2024年1月、新たな門出を国分寺地域支部の皆様とお祝いしましょう。

1. 開催日時：2024年1月20日(土) 17:00~19:00 (受付：16:30)
2. 開催場所：「北海道」国分寺南口駅前店 (JR国分寺駅南口 徒歩3分)
(国分寺市南町3-9-15 国分寺ステップス4階 ☎042-300-1277)
3. 会費：4,000円(飲み放題付) アトラクションで、「ビンゴ」を行います。

ご案内の詳細につきましては、この「会報第26号」に同封させていただいております。

また、「返信ハガキ」も同封させていただいておりますので、必要事項をご記入し、12月10日(日)まで返信をお願い申し上げます。皆様のご参加をお待ち申し上げます。
(幹事：豎山富美子、坂庭香予子、納谷菊夫、神山健司、望月啓介)